



# 地域

# 子どもたちを

# 育もう!



# Kids

## 子どもたちの声が校内にこだまする

—羽黒小学校放課後子ども教室・みんなの居場所「羽黒ほっとサロン」(山梨県)—

みんなの居場所「羽黒ほっとサロン」は、山梨県甲府市立羽黒小学校にある放課後子ども教室であると同時に、運営主体の名称でもある。2007年、子どもたちが自立・自律できない

現状を見聞きして、危機感を覚えた1人の元教員の女性が、自ら希望して、羽黒小学校の空き教室の「行政財産の目的外使用許可」をもらい、開設したものだ。そこに集う子どもたちは、元気で明るい。その様子取材した。(取材・文/有馬 正史)



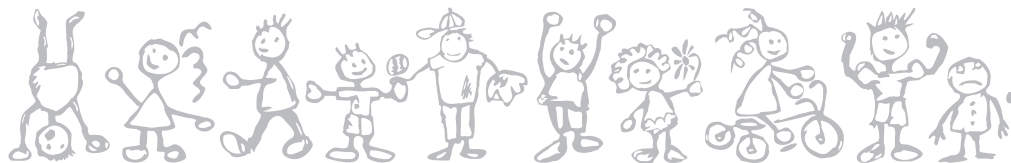
みんなの居場所「羽黒ほっとサロン」(以下、ほっとサロン)は、1年生から3年生までの学童保育(さくら学級)を引き継ぐ形で、4年生から6年生までの児童を受け入れている。代表は、元小学校教頭でコーディネーター兼務の塩崎洋子さ

ん。ボランティア登録は63名の校区内住民、内5名は退職職員。開催日数はおよそ年間230日、学校がある月曜から金曜まで毎日開き、活動時間は授業終了時から夕方6時まで。現在の登録児童数は24名。1日平均20名の児童に3名のボランティア(安全管理員、学習アドバイザー、指導員として)が寄り添う。

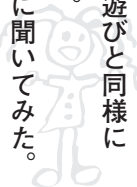
神宮司真佐子校長は、「今の社会環境の中で、家庭に1人でいなければならぬ子どもたちがたくさんいます。そういう子どもたちを含め、子どもたちが一緒に宿題をし、遊ぶことができることは大変いいことだと思っています」と言う。



地域の人たちと一緒にの花壇作りは楽しい



ほっとサロンは、子どもたちの「ただいま」の声から始まり、まず学校の宿題。教えてほしいという子には、ボランテニアはアドバイスをする。その後は、それぞれ仲間をつくり自由に遊び始める。ほっとサロンは1部屋だけだが、学校の協力で渡り廊下や中庭なども使って外遊びをすることができる。運動場はスポーツ少年団優先のため、月曜日に週1回だけ使える。その時は精一杯みんなで遊ぶ。また、学校に隣接する田んぼと道路脇の花壇を借りて、田植えや稲刈り、花植えといった体験活動も活発だ。ほっとサロンの廊下では、ホタルと川二ナの飼育も行い、夏にはホタル祭りを計画している。塩崎さんは、自由遊びと同様に継続的な体験活動を大切に行っている。



ほっとサロンについて4人の児童に聞いてみた。6年生の浅見裕香さんは「集団で遊ぶことが多く、いろんな学年の男女が交ってバレーボールやキックベースボール、サッカーなどをします。下級生が多いので、自分がしっかりしようと思っています」。3年生でただ1人参加の市川あいさんは「先生たちがみんなやさしいです。あまり、ああしなさい、こうしなさいと言いません」、4年生の小山田晃平君と丸山陽礼君は「いろんな人と遊ぶことができて、学校の休み時間では遊べない6年生や5年生とも一緒に遊ぶことができます」「学校とか家がない遊び道具がここにはあって、いろんな学年の知っている顔の人たちと本格的に遊べるからいいです。ホタルの飼育は面白い。川二ナを集めるからいいです。川二ナを川に行きました。また、米作りで田んぼに初めて入ると、ぬるぬるして、いろいろな虫がいて、蛭もいて怖かったけど、お米ができるのが楽しみです」と、4人ともはきはきと話してくれた。自由遊びも体験活動も今や田舎でも難しくなりつつある。大人の理解と積極的な支援が望まれる。



渡り廊下の小さなスペースでも楽しい遊びが工夫される

